

人生の書 『共産主義における「左翼」小児病』に学ぶ

第9回

四国ブロック

誰のための革命なのかを労働者に拡げる運動を

第10章 二、三の結論

(前半)

ロシア革命の歴史的意義

司会 (吉田) …いよいよ最後の章となります。第10章のレポーターは高知県協の谷口さんです。まず、レポーターの方からこの章の概要について報告をお願いします。

谷口…この第10章はこれまで学習してきたことの結論です。第9章の末尾でレーニンが述べたように、共産主義

の一般的・根本的な原則を個々の国の特殊な条件に当てはめる必要性について書かれています。このなかで「左翼」小児病はこの必要性が理解できないことから生まれる病気であることを明らかにし、これを克服する道を教えてくれています。

司会 (吉田) …ありがとうございます。それでは内容を見ていきましょう。レポーターは4つに分けて説明してくれました。まず一つ目は、ロシアにおける1905年のブルジョア革命運動と、1917年の2月及び10月の革命的歴史の意義についてです。このポイ

ントは何ですか。

谷口…レーニン曰く、何よりもこれらの革命はプロレタリアートが大きな役割を果たした点と、ソビエトという新しい闘争形態をつくり出して、社会主義革命を勝利させた点にその意義があるということです。その後ロシアだけでなく、国際的にソビエト形態が拡がって、ブルジョア議会制度に代わるものとして明らかにされました。

階級独裁のために必要な」と

司会 (吉田) …ソビエトがブルジョア

## ◆ みんなの学習講座



落ち着いた面持ちでしっかりとしたレポートをする  
高知県協の谷口さん

議会制度の墓堀人になると書かれていますね。続いて二つ目ですが、プロレタリアート独裁の樹立についてお願いします。

谷口…これまでの労働運動内の右翼的日和見主義に対するたたかいから、今はさらに「左翼」小児病に対するたたかいに勝利することが課題であるとして、プロレタリアート独裁の樹立が必要であるということ。そしてそれには

共産主義の基本原則を民族的特殊性に応じて正しく適用する必要があるとして、そのためには民族的特殊性の調査研究、発見、推測、把握が重要だと述べられています。

司会（吉田）…今の二つ目を受けて三つ目はなぜそれが必要なかが説明されています。

谷口…なぜ民族的特殊性を重視すべきなのかということですが、革命は圧倒的な大衆を組織しなければ勝利できないし、大衆を自覚めさせ運動に立ち上がらせ、彼ら全体を導くには、革命家が必要な妥協、迂回、ジグザグ、退却を行う能力を持つ必要がある。革命家は大衆のいるところではどこでも活動し、社会活動のあらゆる形態に通じていること、情勢に応じて臨機応変に活動形態を変えていく柔軟性を持ち合わせている必要があるということです。

司会（吉田）…続いて四つ目ですが、革命家は柔軟な対応が必要であると書

かれていますね。

谷口…右翼的日和見主義者は、労働運動と社会主義運動の古い形態だけを見て、その新しい変化を見る事ができませんでした。一方「左翼」主義は一定の古い形態を無条件に頑固に否定して変化を認めませんでした。革命家は多種多様な形態をとって、変化しなからずすむべきであり、原則を維持しながらも最大限に弾力的でないといけないとレーニンは述べています。

司会（吉田）…これまで学習してきたことですね。一つ聞いておきたいのが、113ページに出てくる「左翼」空論主義という言葉です。これは「左翼」小児病と同じ意味でしょうか。  
須藤…それでいいと思います。

### 階級の前衛とは

岸本…114ページにある、先ほどレポートでも出てきた労働者階級の「前

衛」というのは何を指しますか。

須藤：「前衛」というのは党のことで、すね。階級を代表する存在です。現在の日本でも、資本家階級を代表しているのが自民党であり、労働者階級を代表するのは社会主義政党です。

池内：「地底のうた」では、革命の前衛は炭鉱労働者になっています。

司会（吉田）：今の感覚では担い手という感じでとらえていますね。それでも間違いいではないですか。

須藤：広い意味では担い手とも言えますが、本来は労働者階級を代表する党を意味します。ここではそうとらえて理解する方が良いかと思えます。

三木：112ページの後ろの方にある「黄色社会排外主義者の第二インターナショナル……」というのはどういう意味ですか。

須藤：いわゆる日和見主義者のことですね。赤色と言えばたかう労働者、黄色は中間色でどっちつかずな意味合

いです。普段はマルクス主義など大きなことを言っても、戦争になれば自国防衛へと態度を変えるような人たちです。社会排外主義というのは、今で言うトランプのようなアメリカ第一主義のようなものを指しますが、どちらかと言えば民族主義的社会排外主義といった方が近いかもしれません。

村田：112ページの半ば、「各国の労働運動はどこでもブルジョアジーに勝つための本質上同種の予備校を卒業するわけだが、このばあい、その発展を自分流に行うのである。」この自分流というのは、それぞれの考えた闘い方で作り上げるという意味ですか。

司会（吉田）：弁証法的考え方といえますか、どこも全く同じやり方にはならないということ。ただし、本質的には同じ道を進むということでしょうか。東口：113ページの始めに色々と書いてありますが、「それぞれの国で経済・政治・文化・その国の民族構成

その植民地、その宗教区分などに違いがあり、それによって闘争の戦術的規則を千篇一律化し、機械的に画一化し、同一視することによってつくることはできない」とあります。つまり、それぞれの国の状況によって闘い方は変えていかなければならないということだと思えます。自分流と書いていますが、自国流という感じですかね。

### 著しい労働者階級の意識低下

須藤：労働者が労働者であることを意識するのは、労働運動の経験からです。労働運動は社会主義の学校であるというように、私たちはまだ労働組合運動が職場にあったために、色々なことを経験し、一定労働者思想が身についていますが、今の職場には組合はあってもたかいたがなく、経験を積むことができないのが現状です。その意味では労働運動の大切さについて我々は改め

## ◆ みんなの学習講座



米大統領選でトランプは「共産主義・マルクス主義」排除、多様性を否定する国づくりを訴え続けた

て考える必要があると思います。  
司会(吉田)：レーニンの主張を考えればどうしても僕は連合のことを考えてしまいます。連合労働運動のなかにいる私たちの今の運動はどうなのか。労働組合の組織率が16%余りしかないなか、連合運動でそれが下がることはあっても劇的に上がることはないわ

けで、まなぶの仲間たちにしても、全  
国交流集会では70歳以上が80%を超  
えていました。これまでは元いた職場  
にどう入って若者と関りを深めるかと  
いうことに努力していましたが、現実  
的に難しい状況にあり、新たな戦術と  
して地域の社会運動である反原発等の  
取り組みに結集しながら仲間を組織す  
るという形をとっている仲間も多くい  
ます。必要なことでも固執するだけ  
なく、柔軟にあらゆるやり方を模索し  
ていくことが必要ですね。

東口：連合もそうですが、毎回国政選  
挙になると共産党を排除しようとする  
力が強くなっている現状があるのも感  
じますし、この前トランプも演説でわ  
ざわざ「共産主義を排除するし、マル  
クス主義も排除する」と言いました。  
逆に言えば彼らにとってよっぽど嫌な  
勢力なんだなと感じました。  
須藤：小池百合子が希望の党をつくる  
ときに、左派は排除すると言いました。

これが支配者側の本質です。

高開：その本性は所詮代弁者であり、  
資本家ファーストということですね。

### 革命の情勢とは

司会(吉田)：では続いて117ペー  
ジ、レポートの革命の三原則について  
説明をお願いします。

谷口：レーニンは革命の三原則として、  
革命に至る二つの状況について書いて  
います。まず一つ目は、敵の全階級勢  
力が混乱し、内部で互いに激しくいが  
み合うことで力を弱めているかどうか。  
二つ目に、動揺し、落ち着きがなく不  
安定な中間分子である小ブルジョア民  
主主義者(小ブルジョアジー、ブルジ  
ョアジーとは区別)がことごとく人民  
の前で暴露され、その実践上の破産が  
起こり、物笑いの種にされているかど  
うか。そして三つ目に、ブルジョアジ  
ーに対する最も断固たる、限りなく勇

敢な革命行動を支持する大衆的な気持ち  
がプロレタリアートの中に起こり、  
それが力強く高まつているかどうか。  
これらの情勢が重要だということです。  
**司会 (吉田)**：前回の第9章の中で、  
搾取者がこれまでのように生活し、支  
配することが出来なくなる。また「下  
層」が古いものを望まず、「上層」が  
これまでのようにやっつけていけなくなっ  
た場合にはじめて革命は勝利するとい  
うことが書かれていますね。レポー  
トでもその103ページの辺りが取り  
上げられています。

### 高度な戦術

**岸本**：117ページ後ろから6行目辺  
りですが、チャーチル派とかロイド・  
ジョージ派というのが出てきますが、  
どういった派閥でしょうか。

**谷口**：党派で言えばチャーチルは保守  
党の政治家で、ロイド・ジョージは自

由党の政治家です。

**須藤**：イギリスの政治状況を見ると、  
チャーチル派とロイド・ジョージ派が  
あり、今レポーターが言ったようにチ  
ャーチルは保守党、ロイド・ジョージ  
は自由党、どちらも保守政党でありな  
がら、対立しています。さらに自由党  
と対立している労働党のヘンダーソン  
派（ただし、第二インターで日和見主  
義者）があり、共産主義者としては保  
守党や自由党に政権を取らずわけには  
いかないということから、日和見主義  
者ではあるものの、まず、ヘンダーソ  
ンに政権を取らせつつ、大衆にいか  
に彼らがダメであるか、共産主義者が正  
しいかということを知らしめるとい  
う戦術を取ったのです。

**司会 (吉田)**：共産主義者は現状、自  
分たちに政権を取る力はないというこ  
とで、まず労働党を支持し、政権を取  
らせて保守政党を排除しつつ、労働党  
でも十分でないことを大衆に知らしめ

ながら前に進めていくということでは  
ね。前回も学習した高度な戦術ですね。  
**須藤**：前にもこの議論はしましたが、  
今の日本の情勢を見たときには、平和  
を掲げる公明党も自民党寄り、野党と  
いいながらも維新、国民も自民党寄り、  
そうなれば国会議員のいない新社会党  
としては、反自民・反独占として不十  
分ではあるものの、共産党・社民党も  
しくは立憲民主党を支持しながら、運  
動を拡げていくしかないわけです。今  
の自公政権は、共産党に政権を握られ  
ると困るので、とにかく労働組合（連  
合）とともに共産党批判を強化し、立  
憲民主党にも共産党と組むと損をする  
ということを、一般の都知事選で知ら  
しめて、保守政権を維持しようとい進め  
ているわけです。

**岸本**：我々に力があればということろ  
ですが、今は野党共闘で闘いながら、  
新社会党の考え方を少しずつ浸透させ  
ていくしかないですね。

## ◆ みんなの学習講座



2024都知事選では小池都知事そっちのけで、蓮舫候補は共産党と組んだことで石丸旋風に敗れたと論じられた

須藤…先ほどレポートでは革命の三原則ということがあります。厳密には革命のための客観的条件と主体的条件ということですね。客観的な革命の条件が情勢的に整っているか、そしてそれが合わせて自分たち革命する側の準備といえますか、主体的な条件が整っているかということ。いくら情勢的に革命の客観的条件があっても、

労働者側の運動がなかったり大衆が選挙にもいかなかったりする状況では革命は起こり得ないのです。今まさに日本がそのような状況にありますね。

### 革命の利益とは

村田…121ページの「革命の利益をまもることのほうがずっと難しい。ずっと尊い。」という一節がありますが、この「革命の利益」とは何でしょう。東口…「革命の利益」と言われると難しいのですが、ここでは革命の条件がない時になっっている。共産主義者は大衆とともに革命に向けて機運を少しずつ高めていくなかで、資本側からもうはさせまいと圧力がくる。そんななかでも闘争を進めていく革命の芽といいますか、そういったものを維持し、高め続けていくことが難しいということだと考えました。

司会(吉田)…なるほど、革命の火の

ようなものですね。どうですか。

須藤…利益と聞くと儲けのように思っています。そうではなくて、何のために革命をするのかということ。誰のために革命をするのかということ。それは労働者階級であり民衆のためだと。宣伝・扇動・組織という我々の運動がなければそれは伝わらないのです。そういった運動の本質をここでは「革命の利益」という言葉で表しているかと思えます。120ページに「へぼ革命家」という言葉が出てきます。何もなくても情勢が革命に向かっていく時にポツと出てくる輩のことです。革命の情勢でないときにこそ、運動に参画することが難しく、困難な時に党に入るとするのは非常に勇気がいることです。

司会(吉田)…政権交代するにしても野党としての受け皿がないとよく言われています。次回、第10章後半とともに議論していきましょう。